

みる つくる がたる

千葉県立美術館報

VOL. 6 NO. 5

昭和55年 3月10日発行

編集・発行人 市原 正夫

〒 260

千葉市中央港 1 丁目10番 1 号

☎ 0472-42-8 3 1 1 (代表)



小堀 進「山麓」

観潮台

作家や作品の形成過程の原風景を重視し、探索していた矢先に、近代洋画の先駆者浅井忠が、フランス留学時代に所持したバスポートを手にした。東京都内の大曾根俊士氏が保存していたもので、私はさまざまな連想を抱いた。

浅井のバスポートはいまのそれとは異なり、縦十八・二センチ、横二十三センチの賞状のような一枚ものである。表面の右上段から墨書で「第二九七七号 東京美術学校教授 浅井忠」と記入され、その上部に「日本帝国海外旅券章」の文字が、菊花文を支える双竜文とともに朱で印刷され、続けて墨書と活字で「右ハ留学ノ為メ仏国ヘ赴クニ付通路故障ナク旅行セシメ且必要ノ保護扶助ヲ与ヘラレン事ヲ其筋ノ諸官ニ希望ス 明治卅二年十月十九日 日本帝国外務大臣従二位勲一等子爵青木周藏」とあり、大臣印などが押されていた。裏面には英仏中の訳文があり、浅井の渡航先がフランスのため仏語欄が用いられていた。

詳細は文化庁編『月刊文化財』三月号の拙稿を参照されたい。
(高橋在久)

明治・大正・昭和の歩み

特別展「水彩画の再発見」

三月二十三日(日)まで
94点を一堂に展観

本年度の最終を飾る、特別展が、二月十九日より三月二十三日(日)まで、「水彩画の再発見」と題して、明治・大正・昭和の歩みⅡの中から、四十五作家、九十四点が本館の一室・三室で開催されている。

規模は催しがなされている。この度は広く、初期的な、外国人作家を含め、全国的な立場から作品を集めている。特に本県関係としては、浅井忠の作品をはじめ、佐原中学校を卒業した小堀進など、房総の海や川、田園風景など、幅広い作品に接することができ

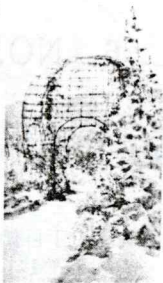


石井柏亭「ジブシーの娘」

この展覧会は、ともすると水彩画が油彩に従属視されがちな立場を、独自の発展した歴史を知るとともに、日本水彩画の確立と発展に貢献した多くの代表作家の紹介と、それらの方々の作品を展示して、広く多くの方々に、水彩美を味わっていただくために企画した。

現在まで、水彩画の全容をテーマとした美術館での展覧会は数が少なく、特定の郷土出身作家を紹介する程度の小

浅井忠京都高等工芸学校の庭」



日本・世界の風景

展示作品の主なモチーフを紹介すると、房総の「千倉風景」を描いた不破章の作品や水野以文の鈍子「犬吠風景」約六十号の大作を描いた、古川浩の「安房白浜」など、山岳や溪流美を紹介した、大下藤次郎の「穂高の麓」や「溪流」高原、三宅克己の「上州妙義山」相模湾」など、人物では石井柏亭の「ジブシーの娘」「晩春行楽図」や「舞姫」、中西利雄の「婦人像」「和装」そして荒谷直之介の「支那服の少女」「若い裸婦たち」など、古事記から題材を得た青木繁の「黄泉比

良坂」など、外国の風景では、白滝幾之助の「チームズ河」や富田通雄の「パリ・モンマ

水彩画の歩み

水彩画は、学校での美術学習でなじみ深い、現在は、小學校の低学年から、水彩画が指導されている。水彩画の歴史は、十六世紀の、ルネサンス時代より始まっており、壁画に描かれたフ

レスコは、水性絵具を用いているので、水彩画の初期的時代といえる。

十八世紀のフランスでは、絵具の粉末を紙にフリつけた、水に溶かして、ほんのりと紙にのせた作品が描かれている。

十八世紀の後半から、十九世紀にかけて、イギリスで水彩画が発展の基礎づくりがなされた、それは民主主義の発達した国情が、国民絵画として多くの人々に簡便に用いられたとも考えられる。そして、ターナーやボニン等の大家が出現し、一八〇四年には世界で始めて「水彩画協会」が結成されている。

日本では、十七世紀にオランダ派を学んだ、司馬江漢や多くの洋学者の余技として、水彩に接していたが、幕開けは明治維新前後である。

横浜開港により、イギリス人のチャールズ・ワグマンが、水彩画の技法をもたらしている。

ワグマンは、ロンドン絵入新聞の画報記者として、二ユースの挿絵として、幕末から明治にかけての動乱の姿を本国に送っている。当時は写真が発達していないため、新

聞などは、下絵を木版で彫って報道している。ワグマンは軍人であって、もともと水彩画の専門家ではなかったが、絵を通信の手がかりとしていたため、事件内容を水彩画として、多く描いていたためそれを知った、当時画家を志していた、青年の高橋由一や五姓田義松等が門下生として教えを受けている、この両者は日本水彩画の夜明けを迎えている。

明治後年となると、今回出品している三宅克己や大下藤次郎、丸山晚霞等が中心となり、水彩画の講習会や研究会を開いて、後進の指導を行っている。大下藤次郎は、「水彩画の榮」「水彩画写生旅行」「写生画研究」など出版し、大いに水彩画の啓蒙に力注いでいる。

この頃に活躍した、浅井忠は、フランス留学時代のグレイ村の風景、中沢弘光の色彩豊かな流動的な風景、そして石井柏亭の明朗な作品、南蕪造の暖色の美しい穏やかな作品が今も展示されている。

大正三年(一九一四)水彩画関係の団体として「日本水彩画会」が創立され、新しい

技法がこの会中心に表現されてきた、その中で赤城泰舒は、明治以来の型を破って、新しい色彩のデッサンともいへべき、方向を形成した。

今回展覧会に出品している「純日」を描いて後藤工志は写実的な客観性に徹しており、中西利雄は、不透明の重さをもく用い、不透明構法の最初の手がかりをつけ、水彩のもつ透明さとを使い分けをしている。

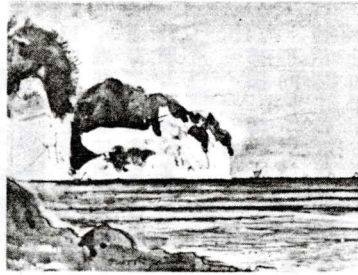
岸田劉生の「村娘於松立像」は独特の技法がよく表現されており、梅原龍三郎は、個性ある明瞭さを描き、水彩画に限りない広がりをも求めている。中西利雄・富田通雄らにより、大正十一年（一九二二）の蒼原会で、大きな画面に粗暴的なものを描き、水彩画を明治以来の技法と対象が行われている。

日本水彩画展は、例年開催される一方、水彩連盟等の芸術運動をも併せて、水彩画発展に力を尽している。

水彩画の技法

水彩絵具をも含めて、絵の材料となる絵具は、顔料と呼ばれる鉱物性の粉末で、これを用いる媒体により、油絵具

と水彩絵具に分けられる。水彩絵具は、アラビアゴムとグリセリンを用い、アラビアゴムは画面を固定する作用をもち、グリセリンは絵具をコロ



ワグマン「本牧風景」

イド状に保させ、発色をよくするためで、数量的には、顔料35%・アラビア・ゴム25%・グリセリン20%・水20%の割合いで、チューブに入っている。乾性の絵具は、グリセリンを用いない別の工程である。

水彩画は絵具を通して、地の紙が透けて見る感じが特色で、色を重ねても、透明で独特な澄んだ美しい色合いが魅力的となっている。

用紙は、ワットマン紙やアルシユ紙が用いられ、日本でも白聖などが使われ、ドウサビきもあるが、吸水、不吸水

性の使い分けも必要であるが、純白で発色のよいもので、筆で強く描いても紙よれしないのが良紙といえる。

水彩画が油絵の補助手段でなく、油絵には表現できない絵画として純粋な美しい、モチーフの具現化として、必要に応じて材料の質を生かし制作している。

今回は特別展として、作品以外に、スケッチ・下絵・水彩画の教科書、パレット、絵筆等も展示し、水彩画の発展を通して、個性ある各作家の作品を紹介し、水彩画の魅力を再発見する機会をもっている。

次に展覧会に出品された作家略歴について紹介する。この順序は、展覧会の作品の順番と同じであり、作家の生年月日を基本としている。

1. フォンタネージ

わが国での最初に来日したイタリア出身の工部美術学校教授で、浅井忠・松岡寿などの門下生があり、洋画の基礎をつくった。

2. チャーリス・ワグマン

横浜開港と同時に、絵入りロンドン・ニュースの特派員

として来日、高橋由一や五姓田義松等を指導した。

3. 高橋由一

ワグマンやフォンタネージにも学び、写実的な画風を追求し、洋画界の基礎づくりをし、明治六年には天絵楼を創設した。

4. 五姓田義松

高橋由一とともに、初期の洋画を学び、渡仏して、レオン・ボンナに師事し、後に同志と明治美術会を起した。

5. 浅井 忠

佐倉藩士の子として、江戸に生まれ、彰枝堂や工部美術学校に学ぶ。渡仏してグレーの連作を描き、帰国後は関西美術院を設立した。

6. 河合新蔵

五姓田義松や小山正太郎に師事し、日本水彩画会研究所を創立し、関西洋画壇に貢献した。

7. 丸山晩霞

動画舎に学び、後に大下藤次郎らと水彩画講習所を開設

酒井さんからの手紙

去る一月九日、故酒井亜人の作品を多数寄贈された房子夫人に紺綬褒章がおくられその伝達式が行われた。以下は、酒井さんの礼状である。

前略 昨日はお忙しい中を私共の為に大切なお時間を頂き、身に余る栄誉を御伝達下さいまして、誠に有難う存じました。又御丁寧な御昼食及び御事迄頂き重ね／＼の御厚情深く御礼申し上げます。

頂戴の品々を手にし致し乍らまだ夢の中に居るような気が致して居ります。まぎれもな

昭和五十五年一月十日
酒井房子

千葉県立美術館長
市原正夫様
御一同様

日本水彩画会の創立にも参加した。

8. 藤島武二

東京美術学校教授として、後進の指導にあたり、白馬会の創立にも参加し、文展・帝展審査員・文化勲章を受賞した。

12. 三宅克己

鐘美堂に学び、渡米しエール大学付属美術学校で学ぶ。著作を通して普及につとめ、後に光風会を創立した。

場で、黒田清輝に師事している。

16. 森田恒友

東京美術学校を卒業後に、石井柏亭らと雑誌「方寸」を創刊し、小杉末醒らと春陽会を創立する。

20. 南 薫造

渡欧してボロー・ジョンソンに師事する。日本水彩画会の創立に参加、日本芸術院会員であり、また東京美術学校教授となる。

21. 長谷川良雄

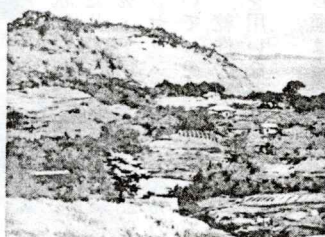
京都高等工芸学校を卒業し、浅井忠に学ぶ、美術団体に所属しないで、独自の画業を続けた。

26. 梅原龍三郎

浅井忠に師事し、二科会や春陽会の創立にも参画する。日本芸術院会員で、文化勲章を受賞し、更にフランスより芸術文化勲章コマンドールを受ける。

9. 大下藤次郎

鐘美堂に学び、水彩画の普及、指導に尽力し、春鳥会を起し、「みづゑ」を創刊した。



三宅克己「相模湾」

13. 中澤弘光

堀井正章に学び、白馬会員として活躍する、日展顧問を経験し、後に文化功労者となる。

浪漫精神を開花させた。明治三十七年の作品「海の幸」はその代表作である。



青木繁「黄泉比良坂」

18. 戸張孤雁

アメリカの海洋画家リチャードに洋画と挿絵を学ぶ。日本彩画会を創立した一人である。

23. 小山周次

三宅克己や丸山晚霞に学び、更に水彩画講習所で研究を続け、水彩画の発展に尽力した。

29. 岸田劉生

白馬会葵橋洋画研究所にて、黒田清輝に師事し、草土社を創立し、春陽会や大調和展に発表し、麗子像は有名である。

19. 石井柏亭

浅井忠に洋画を学び、東京美術学校で黒田清輝の指導を受ける。日本水彩画会や二科会の創立にも参画し、帝国芸術院会員となる。

10. 真野紀太郎

大下藤次郎らと日本水彩画研究所を設立し、更に日本水彩画会を結成した。



大下藤次郎「暖流」

11. 白瀧幾之助

生巧館に常び後に、天真道

25. 石井鶴三

東京美術学校卒業、日本水彩画会、春陽会等の会員となる。

30. 後藤工志

日本水彩画会研究所で、大下藤次郎や丸山晚霞に師事し、日本水彩画会の結成に参加する。

31. 小泉癸巳男

日本水彩画会研究所に学び、後に創作版画に進み、「昭和東京百図絵」を完成している。

32. 栗原 信

茨城県の小学校教員をしながら学び、第二紀会を創立し、後に新潟大学教授となり、日本水彩画会の発展に尽力した。

33. 古賀春江

日本水彩画会研究所に学び、その後美術界の前衛として、アクションを結成し、表現派やキュビズム風を試みた。幻想的な作風が特徴である。

34. 村山槐多

自由主義教育の影響を受け、詩や創作をよくした。二科展で活躍しながらも二十二才で夭折した。

35. 小山良修

日本水彩画会研究所に学び、蒼原会結成に参加した。更に水彩連盟を創立する。現在日本水彩画会の理事として活躍中である。

36. 中西利雄

東京美術学校を卒業、新制

作派協会の結成に参画す、もっぱら不透明水彩絵具を用いて、独自の作画活動が続けている。

37. 不破 章

後藤工志に師事し、石井柏亭の門下となる。日展会員として活躍するとともに日本水彩画会の理事長もつとめた。

38. 富田通雄

本郷洋画研究所に学び、中西利雄らと蒼原会を結成し、水彩画の革新運動を起している。日本水彩画会監事をつとめ、一水会会員として活躍中である。

39. 荒谷直之介

東京葵橋洋画研究所に学び、水彩画の向上、発達を目ざし、水彩連盟を創立する。一水会や日展でも活躍中であり、水彩連盟運営委員をつとめている。

40. 春日部たすく

川端画学校に学び、新興水彩画の普及のため、土曜会を主宰し、水彩連盟創立に参加する。現在は水彩連盟及び日本山岳画協会の会員として活躍中である。

41. 小堀 進

佐原中を卒業し、葵橋洋画研究所に学び、後に水彩連盟の創立に参加している。水彩画新開拓運動の中心的存在であり、日本芸術院会員に選出されている。

42. 無縁寺心澄

千葉市生まれ、川端画学校に学び、日本水彩画会員となり、千葉県美術協会（千葉県美術会の前身）の設立に尽力した。

43. 渡部第二

水彩連盟設立に参画し、新たな水彩運動を起し、その向上につとめた、人物水彩の領域を開拓し、研究を続けている。

44. 古川 弘

埼玉師範学校卒業後に、水彩画を研究し、日本水彩画展で、ホルバイン賞を受賞。水彩画の発展に尽力した。

45. 山本不二夫

佐原市出身、昭和十七年日本水彩画会員となり、キング賞を受ける。現在二科会員、日本水彩画会理事、千葉県美術会常任理事として活躍中である。

待望の県民アトリエ完成

がある。

千葉県立美術館第三期工事としての「県民アトリエ」の工事が着工されたのは昭和五十四年三月であった。以後工事は着々と進められ十一月月を経過した現在外容も整い、内装工事も日増に進捗、いよいよ完成も間近に迫った。

この県民アトリエは、「みる・かたる・つくる」の美術館活動の一環として、美術の生活化をはかつてゆく考えである。

アトリエの総建坪面積は一五〇二㎡で、各部屋はその利用目的にそって機能、構造等充分検討された上で造られている。講堂、情報資料室、研修室、実技室（第1、第4まで）窯場、管理事務室、洗面脱衣室、荷解室、身障者用便所等の内装も鋭意進められています。ちなみに各室のスペースは、講堂は三〇〇㎡、情報資料室・書庫等は一八〇㎡、研修室は七六㎡、第一実技室（平面）は一五六㎡、第二実技室（立体）は一八四㎡、第三実技室（和室）は一八五㎡、第四実技室（屋外）・窯業場（屋外）は三四㎡、管理事務室は三四㎡、荷解室は二六㎡で、このほか、ホール、ローカー置場、倉庫、物置等

そして、次の四つの基本的な考えのもとに運営、実施されることになっている。その一つは県民の美術実技センターとして、創作のための実技教室や講座を開催し、自らが作る創造の拠点とする。第二は県民の美術の学習センターとして、講演会、研修会、映画会、談話会等を実施するとともに利用者の質問や相談にも応じて積極的に美術の普及と振興を図るよう努める。第三には県民の美術情報センターとして、美術に関するあらゆる資料を収集、整備して、積極的に公開し、美術の応用と生活化を促し、あわせて調査研究の拠点としたい。第四には県民の美術館友の会、美術団体サークル等に交流と美術の広場を提供する。

新収蔵作品紹介

(54年12月～55年2月)

購入

香取秀真作 工艺

「鉄瓶」

香取正彦作 工艺

「朧銀玉鍔花瓶」

「金銅魚籃観音」

後藤純男作 日本画

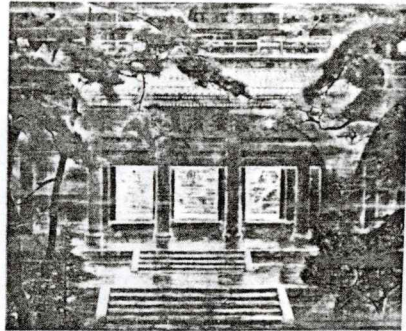
「山門雨後」



香取正彦「金銅魚籃観音」



香取秀真「鉄瓶」

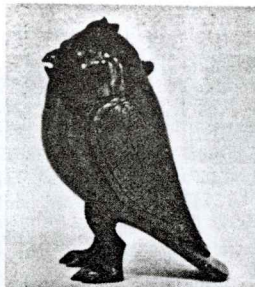


後藤純男「山門雨後」



香取正彦「朧銀玉鍔花瓶」

寄贈



香取秀真「鳩香炉」

「鳩香炉」
「鑄鉄茶釜」

つぎの資料が寄贈されました。ここに厚くお礼申し上げます。

外国人の見た

日本美術

風土が変われば、そこから創み出される絵画も異質なものとなる。まして、マスメディアが発達していない時代では、異様なものに映ったであろう。

信長・秀吉の政権時代に來朝したキリシタンパテレンのジョアン・ロドリゲスは著作『日本教会史』の第二巻第二章に「日本のいくつかの技芸について、まずその絵画について」として当時のヨーロッパ

美の泉

パ人の日本絵画観を次のように記している。
「自然の事物を描くのに、できる限りすぐれた類似性をもって自然を模写することにおいてきわめて優秀であるが、架空で想像上の事物を描いた絵画では才能を発揮して、大いにそれらしく作りあげるのであつて、あるがままの自然に従っているのではない。たとえば想像上のさまざまな花や形を技巧的に組み合わせたり挿入したりするとか、その他この種のことをする。」
現在、多彩な絵画が創造されている。しかし、我々にはもはやそこに異様さというものはない。

トピックス

●盛会のうちに葉
美会展終わる
迎えて四回目的

葉美会展が、八十二名、一三六点の力作を集め、一月十五日から二月二十七日まで開催された。

この中には、日頃指導いただいている、武内先生の「裸婦」根岸先生の「静物」、高橋先生の「魚港」が、賛助出品され、展覧会に花を添えてくれた。

洋画実技講座に参加されている方々の参加が目立ったが、本年度は、毎年増加の傾向を



たどっていた出品者数が、昨年度を十二名も下まわっている。

一月二十七日、最終日には武内先生による出品作品個々について、指導・講評があり、参加者の多くが、メモをとりながらうなづいていた。

●第三回美術を語る会

去る一月十九日(土)、開催中であつた「板倉鼎」展に焦点をあて行われた。話題提供者として鼎の実妹板倉弘子氏、ならびに本館学芸課長大木衛があたり、質疑形式で想い出話しが語られた。折りよく会場には、鼎の千葉中学校時代からの知り合いで、しかもヨーロッパ留学中に共に行動した洋画家和田清氏も顔を出され、鼎の知られざる姿が浮彫りにされた。

特に、鼎がサロン・ドートンヌに出品した時の話や、パリに客死した時の様子など、今まで多く語られることのなかった作家だけに、その一言一言が貴重な証言として、聞く者の心をとらえていった。



今回は、鼎の色彩的な明るさ、平易な画面から、女性の参加者が多く、しみみりとした会になったことも、今までにない特徴であつた。

伝言板

○友の会の新規入会手続は、二月中旬まで停止いたします。なお、以後は、五十五年度分の継続、新規ともに取り扱います。
○談話コーナーへの投稿をお待ちしております。皆さんの御意見を期待します。

談話コーナー

「県民アトリエ」に望む

西村陽平

最近では他県でも多くの県立美術館が設立されています。それぞれ地方の美術館は独自の特色を出そうとして苦勞しているようです。千葉県では船橋の西武美術館がユニークな活動をしています。が、千葉県立美術館でも今回の「県民アトリエ」の設立により一つの特色が出たように思います。しかしそれが特色として生きていくためには、内容が問題となつてきます。私は、フランスのポンピドゥーセンターの活動が参考になるのではないかと考えています。

酒井千代子

美術館を訪れる度に、工事をしている様子を眺めながら楽しみに、待つて居ります。

立派な「アトリエ」が出来る上でお年寄りも、若い人も、働いている人も、遠い人も「行かねばならぬ」と云う気持ちにならないと、

利用する人が、きまつてしまふのではないかと、一寸心配です。

先日の新聞に「主婦が、美術鑑賞の案内」と云うのが、出て居りましたが、如何なものでしょうか、私には、発表するのは、苦手ですが、「共に学びたい」と美術の勉強が、出来るようになるのではないのでしょうか。それと、油絵だけでなく、日本画、写真の講座が、出来る事を望んでいる声を聞きましたので、よろしくお願い致します。

熱田誠一

いよいよ、県民アトリエが目前のものとなつた、と聞き、心から喜んでいますが、とかく新しいものについて各方面の意見を集約すると、いわゆる総花的になりがちですが、わが県立美術館にあつては、その特色の一つとして、ぜひ今後「つくる」を主眼として、アトリエも体系づけて頂きたい。実技講座OBの経年研修を、この機会に一層充実させてもらいたい。

各種講座あんない

■七宝焼講習会

本館では、本年度最後の実技講座「七宝焼講習会」を左記のように計画し、参加者を募集している。

七宝焼とは、七宝をちりばめたような美しい焼物の意で銀や銅などの面にくぼみをつくり、そこに酸化鉛、酸化コバルトなどを含む、種々の色のエナメルを埋め、熱して熔着させて、花鳥、人物などの種々の模様をあらわし出したもので古代中国の秦漢時代か

新年度「友の会」の会員募集

年度の切替えが近づきました。

五十五年度の会員を募集いたします。来年度は県民アトリエ内の事業も計画され、今後一層充実したものが行われる予定です。

継続加入者は入会金五百円が免除されます。二月、三月中でも新年度分の加入申込みを受付ますので、ご希望者はお申込み願います。申込者は、振込みの場合

らあり、わが国でも奈良・平安時代に作られ今にいたっている。今回は、初心者を対象とし、ペンダントやブローチなどのアクセサリ、室内装飾品などの制作技法の習得を通して、手づくりの楽しさ、使う喜びを味わう講座である。

・期日 3月26日(水)～27日(木)

午前10時～午後4時

・講師

長南光男(千葉大学教授)

・会費

無料(ただし教材費については自己負担)

・募集人員

40名(応募者多数のときは抽選で決定)

・会場

美術館県民アトリエ

・申し込み

往復はがきに、講座名、住所、氏名、電話番号を記し、美術館普及広報班係宛、3月15日(土)まで

※期日変更のお知らせ

今回、講師の都合により

3月6日(木)～7日(金)の期

日が、3月26日(水)～27日

(木)に変更になっていますのでご注意ください。

団体展

(3月～4月)

▽第5回千葉県民写真展

2・19～3・2 無料

▽第11回千葉市民美術展覧会

3・4～3・23 無料

▽書星会教育学部展

3・25～3・30 無料

▽等迦会千葉支部美術展

4・1～4・6 無料

▽第七回千葉工芸展

4・1～4・13 無料

▽第6回弥生展

4・1～4・6 無料

▽第17回全日本総合書道大

覧会 4・8～4・13 無料

来館者

12月

2 埼玉大学学生、博物館

学実習のため埼玉大学

講師、加藤有次氏

7 日立市郷土博物館長、

水庭之尚氏

14 文部省大臣官房審官

鈴木勲氏

1月

5 板倉弘子氏

9 県議会議員、鈴木勝氏

10 オーストラリア視察団

一行十名

17 岐阜県美術館準備室職

員三名

19 県議会議員相川久雄

氏

22 青森県教育庁文化課二

名

23 福島県いわき市教育委

員会

2月

1 県教育委員長、東平久

雄氏

14 北海道住宅都市部工営

課三名

長崎県立美術館博物館よ

り一名

16 岐阜県東京事務所長他

二名

18 市川市教育長山口重直

氏

21 静岡県教育委員会一行

今井県教育長

26 水戸市教育委員会一行

十五名

日記抄

12月

7 常設展「収蔵作家五十

人展」オープン

14 県立美術館・博物館協

議会

1月

5 企画展「板倉鼎展」オ

ーブン

9 酒井房子氏、紺綬褒章

伝達式鈴木勝県議臨席

19 第五回美術を語る会、

「板倉鼎を語る」話題

提供者、板倉弘子(板

倉鼎の実妹)

2月

5 美術館資料審査委員会

6 長谷川昂、郡司玲子氏

紺綬褒章伝達式

14 渡辺孝氏紺綬褒章伝達式

特別展「水彩画の再発

見」オープン

23・24 てん刻入門講座